

II 令和7年度のあらまし

1 教育事業（詳細はP. 8～18参照）

青少年教育のナショナルセンターとして、青少年の各年齢期に必要とされる体験活動（自然体験、社会体験、生活体験等）の適切な場と機会提供の場とするために教育事業を実施してきた。

「課題を抱える青少年の支援事業」として『生活自立支援キャンプ』、「地域ぐるみ事業」として『スマイルばんせい』、「青少年教育に関するモデル的事业」として、学校・団体参加型『地域探究プログラム』、「ボランティア養成・研修事業」として、『ばんボラセミナー』、『ボランティア自主企画（「Step Up Now!!～仲間との絆で踏み出す一歩～」）』、東日本大震災からの復興支援事業として、『第11期福島こども未来塾』①～④を実施した。

「実践研究事業・特色化事業」として昨年度まで実施してきた『アクティブ・ジオキャンプ』は、今年度から実践研究の成果と登山プログラムの普及推進の活動プログラムとして取組んでいくことになった。それ以外については予定どおり各事業を実施することができ、多くの青少年に体験の機会を提供することができた。



第11期福島こども未来塾

2 研修支援等（詳細はP. 19参照）

令和7年度は宿泊利用者数44,662人、日帰り利用者数4,688人となった。これは年度当初に設定した目標値に対して、宿泊利用者数が93%、日帰り利用者数が260%の達成率となる。

今年度は地域連携プログラムを新設した。本プログラムには、福島県立博物館職員と連携している震災講話プログラムに加え、アクアマリンいなわしろカワセミ水族館と連携したプログラム「カワセミトーク」を新しく加えた。このカワセミトークは、水族館職員から福島県内に生息する水生生物についての理解や水族館見学の楽しみ方についての講話を受けるプログラムである。実際に講話を受けた団体からは、初めての発見に驚いたり、水族館見学が楽しみになったりしたと好評を得た。また、宿泊利用者のみ活動が可能だった野外炊飯プログラムを日帰り利用団体向けプログラムとして拡大し、さらに必要物品の事前準備も施設で行う「日帰り野外炊飯らくらくパック」を新設した。本プログラムの広報は県内校長会や各市町村教育委員会に行った。

利用者獲得に向けた広報活動として、新潟県高等学校PTA連合会、新潟県私立中学高等学校協会、猪苗代町商工会へ向けて、訪問型広報を実施した。

3 地域との連携

(1) 運営協議会の開催

第1回運営協議会 (R8.1.29)

令和7年度 国立磐梯青少年交流の家運営協議会名簿 (敬称略)

No.	氏名	所属職名
1	増子 惠二 (委員長)	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会 会長
2	遠藤 裕一	福島県教育庁社会教育課 課長
3	中野 充	学校法人新潟青陵大学 福祉心理子ども学部臨床心理学科 准教授
4	角田 守良	福島民報社 編集局長
5	門脇 広子	福島県立猪苗代高等学校 校長
6	小川 信二	株式会社シグマ 経営企画本部 参与

令和7年度は「運営協議会」を1月に実施した。(対面とオンライン) 国立磐梯青少年交流の家グランドデザインや令和7年度の教育事業等方針について説明し、令和7年度の施設利用状況、教育事業、施設整備状況広報実績等について報告した。

その後、令和7年度施設利用申込状況、教育事業等計画、施設整備計画、広報計画について協議した。

委員一人一人のそれぞれの立場や新たな視点から意見を伺うことにより、当交流の家での取り組みや計画を見直す機会となり、有意義な時間を過ごすことができた。

今後も第4期中期目標・中期計画を踏まえた取り組みに対して、いただいた貴重なご意見を反映させながら次年度の運営に生かしていく。

(2) 福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会

第1回実行委員会 (書面審議)

第2回実行委員会 (R8.2.20)

令和7年度 福島「体験の風をおこそう」運動実行委員会名簿 (敬称略)

No.	氏名	所属職名
1	佐藤 隆宏	猪苗代町教育委員会 教育長
2	高橋 敦司	福島民友新聞社 若松支社長
3	小川 真二	株式会社シグマ 経営企画本部 参与
4	佐藤 素子 (実行委員長)	国立磐梯青少年交流の家 所長

地域の資源を活かした体験活動の充実の重要性について普及啓発することで、地域の教育を高めるとともに、福島県内で暮らす子どもたちに様々な体験の場と機会を提供して、健全な青少年の成長を促す礎を築くことを目的として、県内や会津地域の各種団体と連携し、特色を生かした体験活動の提供及び普及啓発活動を行った。

① 「スマイルばんせい」の開催 (詳細P. 11参照)

② 「学びいなまつり」他イベントブース出店

② 「猪苗代湖の水質保全活動推進」のため (紺碧の猪苗代湖復活プロジェクト会議)との連携 (詳細P. 18参照)

(3) 各高等学校・大学等との連携（ボランティア活動の充実）

各種教育事業を実施するために、各高等学校（会津学鳳高等学校・須賀川桐陽高等学校・尚志高等学校・磐城高等学校）及び各大学（福島大学・新潟清陵大学・慶応義塾大学・郡山女子大学・東邦大学）の学生に参画をしていただいた。

(4) 青少年施設連携

① 東北地区青少年教育施設運営研究協議会

東北地区青少年教育施設の関係者が一堂に会し、各施設における日頃の実践例をもとに研究協議を行い、地区相互の連携を深めることを趣旨としている。今年度は、福島県会津自然の家（福島県会津坂下町）が事務局を務め、会津若松市生涯学習総合センター（会津稽古堂）を会場とし、各施設の運営や施設設備について情報を交換しながら連携を深めた。

② 東北連携会議

国立青少年教育施設東北地区4施設（岩手山・花山・磐梯・那須甲子）の連携を強化し、各施設における業務の活性化を趣旨としている。今年度は国立花山青少年自然の家が事務局を務め、国立磐梯青少年交流の家を会場として開催した。1日目は、磐梯の施設見学や活動プログラム体験「カワセミトーク」（講師：公益財団法人ふくしま海洋科学館 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館 館長 岩田 雅光 氏）などを実施。2日目は、「事業系」「総務・管理系」に分かれ、分科会で、各施設の運営や設備状況について情報交換し、連携を深めた。

③ 福島県自然の家会議

福島県いわき海浜自然の家を中心に、会津自然の家、郡山自然の家、国立磐梯青少年交流の家、国立那須甲子青少年自然の家と連携会議を行ってきた。各施設の利用状況や事業報告、課題や対策についての協議や情報交換が主な活動であった。

4 法人ボランティア表彰

当交流の家を中心にボランティア活動を積極的に行った3名が令和7年度法人ボランティア表彰を受け、表彰状を授与した。

【令和7年度法人ボランティア表彰者】

- | | | | |
|--------------|----|----|----|
| ・福島大学 | 4年 | 加藤 | 実果 |
| ・郡山女子大学短期大学部 | 3年 | 佐原 | 凜香 |
| ・会津学鳳高等学校 | 3年 | 相原 | 匠翔 |